

DM Topics

for Nursing

特集

当院の例

患者の手順

- ①スマートフォンアプリ「スマートe-SMBG」をダウンロード
- ②血糖自己測定器や、体重計、血圧計、活動量計などの測定機器とスマートフォンをペアリング(接続)します
- ③測定します
※測定データは自動的にスマートフォンに送信され記録されます
- ④記録データを医療機関とe-SMBGクラウドで共有
- ⑤オンライン診療予約時間に、アプリからビデオ通話を開始。オンライン診療を受けます
- ⑥診療後、産科受診の際に会計をします
- ⑦処方された薬剤を受け取ります
※受け取り方法は薬局によって異なります。オンライン服薬指導や薬の宅配サービスなどを行っている薬局もあります

医療機関側の手順

- ①e-SMBGクラウドで、電子カルテと照合しながら患者が記録した血糖値や食事等のデータを確認
- ②診療予約時間になったらe-SMBGのビデオ通話を開始
- ③次回オンライン診療予約を取得
- ④電子カルテに診療内容を記録
- ⑤処方箋を患者指定の院外薬局にFAXします

*オンライン診療に活用できるサービスやアプリは他にもあります。

糖尿病患者におけるオンライン診療では、主治医あるいは医療スタッフと対面診療において良好なコミュニケーションがとれており、ある程度症状が安定している患者が対象と考えられます。ケトアシドーシスなどの急変時や、合併症でこれまでにない症状が出現した際は、対面診療に切り替える必要があります。

当院がオンライン診療を行っている妊娠糖尿病患者の場合、産科と内科の両方で定期的な検診受診が必要で、それぞれの診療科を別日に予約すると通院が大変になりますし、同日に予約すると病院滞在時間が長く体に負担をかけることが懸念となっていました。オンライン診療を取り入れてからは、仕事の休憩時間や、移動中の車の中など、時間や場所を選ばず受診してもらえます。また、妊娠糖尿病は、産後に糖尿病を発症するリスクが高いためフォローアップが肝要です。オンライン診療を取り入れることで、そうした体制がとりやすいのもメリットと感じています。

オンライン診療は、2018年に初めて登場しました。それまでは「遠隔診療」といって、主に対面診療が難しい離島やへき地での利用を対象としていましたが、スマートフォンなどのICT技術の進歩とともに、都市部の利用が検討されていきました。当院(関東労災病院)では、2012年よりオンライン診療の実証研究に参加しています。

適した患者 オンライン診療が 適した患者

当院では、現在、「e-SMBG」という糖尿病管理システムを利用して、妊娠糖尿病患者を対象にオンライン診療を実施しています(左記)。

管理栄養士がオンラインで栄養相談を行い、情報通信機器を用いた外来栄養食事指導料を算定することもできます。

オンライン診療の登場

オンライン診療の様子

定期的な通院が必要な糖尿病治療において、オンライン診療は、治療を継続するための医療サービスの1つと考ええます。オンライン診療のしくみが、よくわからないという方に向けて、当院での例を参考に説明します。

オンライン診療って、どんな感じ？ 血糖記録アプリを用いた実例

関東労災病院
糖尿病・内分泌内科 前部長
監修 浜野久美子 先生



こちらから
Check!



「オンライン診療の適切な実施に関する指針」

厚生労働省

平成30年3月(令和4年1月一部改訂)

こちらから
Check!



血糖記録アプリ早見表 2022年版

血糖自己測定器と連携できる
アプリ12種類を一覧に。



ニュース まとめ読み

最近注目のニュースを
ご紹介します。

詳細はこちら

糖尿病リソースガイド
<http://dm-rg.net/>



日本で初めての 「2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム」

日本糖尿病学会が「2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム」を発表。2型糖尿病の治療薬の選択に、初めて明確な指針が示されました。同アルゴリズムは、欧米とは異なる日本人の糖尿病の病態に応じて治療薬を選択することを最重要視し、各治療薬の

エビデンスに加え、国内での処方実態を勘案して作成されています。具体的には、病態、安全性、additional benefitsを考慮すべき併存疾患、患者背景に関わる4つのステップに従って治療薬を選びます。

世界初の持続性GIP/GLP-1受容体作動薬

日本イーライリリー(株)と田辺三菱製薬(株)は、グルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド(GIP)とグルカゴン様ペプチド-1(GLP-1)の、2つの受容体に単一分子として作用する持続性GIP/GLP-1受容

体作動薬「マンジャロ®」について、2型糖尿病を効能・効果として製造販売承認を取得したと発表しました。同剤は、1回使い切りのオートインジェクター型注入器「アテオス®」を用いて週1回皮下注射します。

4コマ劇場

糖尿病看護の“あるある”体験談

実際の体験談を
4コマ漫画化!

第13回「言うは易く行うは難し」

福岡県 40代 やこさん(看護師歴 20年)

糖尿病の診断を受け、教育入院が初めての患者さん。初めは不安げでしたが患者仲間と励まし合い、最終日には自費で血糖自己測定器や万歩計を購入するほどやる気に。しかし数ヵ月後、外来で会った時にお話すると「SMBGもウォーキングも続かなくて…」と気まずそう。日常生活に戻ってからのモチベーション維持の難しさを感じました。

Nurse's advice

木下Ns.の一言アドバイス

モチベーションを保つことはやはり難しいですよ。励まし合ったり、応援してくれる存在は療養生活に大きく影響します。まずは外来受診時に、看護師と小さくてもいいので1つ目標を立てて、できた時には一緒に喜びましょう。また、万歩計アプリの中にはSNSとつながり、競ったり励まし合う仲間ができるものがありますので、紹介するのも1つの手です。

木下 久美子 先生(関東労災病院 糖尿病看護認定看護師)

詳細はこちら▼

体験談募集中!

皆さんの「元気になる」「ほっとする」エピソードをお待ちしております。採用された方にはプレゼントも!



教えて、MRさん!

Q e-SMBGクラウドとは?

e-SMBGクラウドは、血糖管理を行う糖尿病の方々が日常の健康管理が行えるよう、インターネットテクノロジーを活用し、血糖値、薬、食事、運動などのデータを登録することで、血糖値との関係をグラフや表形式で見ることができ、日常生活の振り返りをサポートします。

また、スマートフォンアプリ「スマートe-SMBG」と連携することで、アプリ内のデータはクラウド上で安全に保存されます。

そして、医療者や家族など、特定のユーザーとの間でデータの共有やメッセージの交換をすることができます。機能の1つとして、e-SMBGクラウドの「血糖値のメール通知設定」と「閲覧

者機能」を使用し、高血糖や低血糖時に閲覧者にメール通知を送信できる機能もあり、医療者や家族などとデータが共有でき、コミュニケーションツールとしても活用いただけます。

